

事後評価報告書(日本-韓国研究交流)

1. 研究課題名:「peptidyl-prolyl cis-trans isomerase Pin1 を用いた Runx2 翻訳後修飾による骨量調節」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授 小守 壽文

2-2. 韓国側研究代表者:ウル大学 細胞・発生生物学研究科 教授 Ryoo Hyun-Mo

3. 総合評価: (B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

Pin1-Runx2 の相互関連を対象に、韓国側は分子／細胞レベルの解析、日本側は組織・個体レベルの解析を役割分担した研究交流を通じ、いくつかの新しい知見、例えば Pin1 による転写因子としての新しい機能等が明らかにされたことは評価に値する。Runx2 および Pin1 のトランスジェニックマウスが作製されたことは、本共同研究の成果でもある。Pin1 や Runx2 に関連した研究成果が複数得られている。一方、日韓相互の研究に貢献すべき相乗効果が得られるには至っていないと思われる。それらが纏まった形の共著論文を発表にする努力が望まれる。

(2)交流成果の評価について

双方が共同で実験を実施するなど、人的交流は適切に実施されている。共同研究テーマを設定したワークショップを開催することにより、若手研究者の参加と活性化が計られたことは評価に値する。一方で、出張費の多くが広いテーマの国際学会への参加に留まり、本研究交流チーム独自の交流を活発化させるための研究集会在若干乏しい様にも思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

研究成果として複数の論文発表が挙げられているが、本研究交流チームによる日本側と韓国側の共著論文が発表されていない。今後、積極的に共同研究成果を出すべく研究を継続し、共著論文の発表に至る努力を期待したい。